

元教員で仁愛大名誉教授の青山さんは小中学校校長を経て2002年に退職。その後、福井大教育実践総合センター客員教授、仁愛人間生活学部子ども教育学科教授、福井工大非常勤講師を務めた。

青山さんは「生涯学習の視点から学校教育を問う直す」(東洋館出版社)を刊行した。生涯学習の基盤となる資質・能力として人間性や実践力を挙げ、体験活動や課題解決型学習の充実を訴えている。

本書では、将来訪れる「AI(人工知能)時代」を前に、

生涯学習 実践力が大切

仁愛大名誉教授 青山さん(福井)著書



著書の中で実践力の育成や体験活動の充実を訴えている青山さん(福井市みのり2丁目)

生涯学習の基盤として人間性、学校教育を通じ、感性や思いを重視すべきだと強調。幼少期から生き物や遊びを通じた友達との関わりが大切とし、

また、与えられた問題をこなし、主体的に課題を発見する資質を育てることに重点を置くべきとし、総合的な学習の時間や探求活動で、AIでは対応できない。

青山さんは「予測不可能で変化の激しい社会にあって、人々が常に学習し続け、問題解決能力を高めるため、ライフステージに応じた学習機会の充実を図っていくことが重要」としている。

青山さんは「予測不可能で変化の激しい社会にあって、人々が常に学習し続け、問題解決能力を高めるため、ライフステージに応じた学習機会の充実を図っていくことが重要」としている。

B5判、298頁。3240円。福井大教育学部の遠藤貴広准教授、福井市東安居小元校長の乾昭治さん、啓蒙小の大正秀哉校長が一部を執筆した。(宇野和宏)